

デジタル・スマートシティ浜松の推進 と医療MaaSの取組

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年11月11日



■ 宣言日

令和元年10月31日

■ 目的

人口減少・少子高齢化をはじめとした社会課題が深刻化するなか、AI・ICT等先端技術やデータ活用などデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市づくりを推進する。

■ 戦略分野

- (1) 「都市づくり」のデジタルファースト【都市の最適化】
⇒ デジタル・スマートシティの推進
- (2) 「市民サービス」のデジタルファースト【市民サービス向上】
- (3) 「自治体運営」のデジタルファースト【自治体の生産性向上】



■ 浜松市フェローの委嘱



陳内 裕樹 氏【デジタル・マーケティング】

(内閣府クール・ジャパン地域プロデューサー、
観光庁アドバイザリーボードメンバー)



東 博暢 氏【デジタル・スマートシティ】

(浜松市ベンチャー支援アドバイザー、
(株)日本総合研究所プリンシパル)



関 治之 氏【データを活用したデジタル・スマートシティ、 デジタル・ガバメント】

(内閣官房オープンデータ伝道師、(一社)Code for Japan代表理事)

将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ渦の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QOLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QOLの向上」と「都市の最適化」

必要な視点1

オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点／サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QOL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進します。



基本原則1

オープン／相互運用性

基本原則2

包摂性／多様性

基本原則3

透明性／プライバシー

基本原則4

持続可能性

基本原則5

安全・安心／強靱性

将来像：デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチ（ペインキラー）と、未来に夢と希望を持てるチャレンジ（ムーンショット）を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。



デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。



世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がり、それぞれの力を発揮。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した儲かる農業が実現。



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。

【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

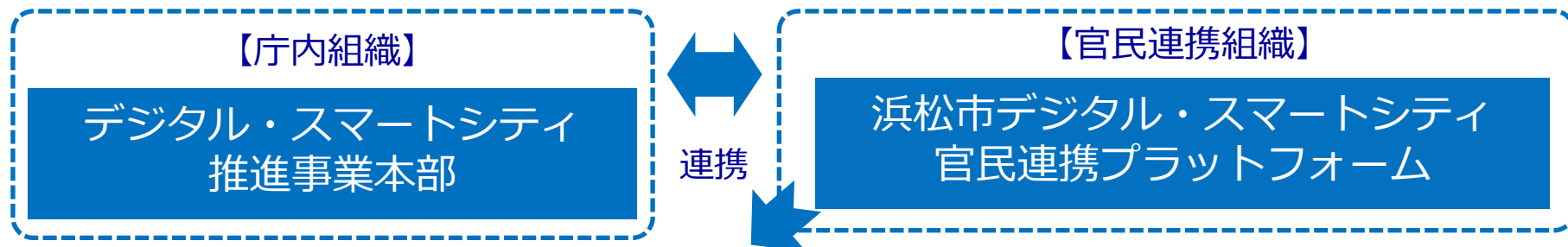


スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジェが対応。職員との対面相談も選べる、便利で安心な市役所。



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全安心な社会を実現。

推進体制



浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

代表：浜松市長、事務局：浜松市（推進事業本部）

会員数:100
(R2.10.23現在)

デジタル・ガバメント分野

浜松市所管部局

防災・安全分野

浜松市所管部局

教育・子育て分野

浜松市所管部局

観光・商業分野

浜松・浜名湖
ツーリズムビューロー

産業(ものづくり)分野

浜松市スタートアップ戦略
推進協議会

運営委員会

※必要に応じ部会や
分科会を設置

エネルギー分野

浜松市スマートシティ推進協議会

モビリティ分野

浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

農林業分野

【林業】静岡県農林技術研究所森林・
林業研究センター
【農業】浜松スマート農業推進協議会 準備会

健康・医療・福祉分野

浜松ウエルネス推進協議会
浜松ウエルネス・ラボ

設立趣旨

- 本格的な人口減少・高齢化社会を迎えるなか、広大な市域を持つ本市において、市民の移動手段の確保は、都市機能や市民生活の維持において重要なテーマである。
- 移動とサービスの連携により新たな需要の創出や地域の活性化への貢献も期待される。
- 国土縮図型都市・浜松におけるモビリティサービスのあり方を検討するとともに、モビリティサービスの観点から本市の持続可能な発展への寄与を目指し、コンソーシアムを設立する。

<体制> ※令和2年4月1日設立

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

- 共同幹事：浜松市、遠州鉄道(株)、スズキ(株)
- アドバイザリー会員：MONET Technologies(株)
- 一般会員：市内外から募集
- 事務局：浜松市(デジタル・スマートシティ推進事業本部)

会員が実施する
プロジェクト

会員が実施する
プロジェクト

会員が実施する
プロジェクト

<取組内容>

- 会員主導のプロジェクトの創出支援
- 会員による実証実験や実装に向けた取組への支援
(フィールドの提供等)
- 先進事例や会員の取組の共有

<会 員>

- 会員種別：①共同幹事
②アドバイザリー会員
③一般会員
- 入会金・会費：無料

浜松版MaaS構想 中間整理

背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。
- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められている。
- 「Withコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められている。

活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業のやらまいか精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップグローバル拠点都市）

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、“繋ぐ”ことで価値を増幅し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。

必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点3：しなやかに繋がる

利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

MaaS推進の考え方

持続可能な地域を支えるモビリティサービスや取組例

“交通・生活課題”の解決や“安全・安心”な暮らしの確保

- 自家用車を使った乗り合いの促進（自家用有償旅客運送等）
- 異なる交通手段の連携や一体的運用・運営
- 遊休モビリティ資産の活用
- 移動診療や移動販売
- 移動や人流データの活用・見える化（公共交通の効率化、アプリ活用など）



市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

多様な暮らし方（多様性） 市民・企業の共助/共創（助け合い） ものづくり力（クリエイティビティ）

アプローチ①

持続可能な地域を支えるモビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造するモビリティサービス



より豊かな生活を創造するモビリティサービスや取組例

移動負担を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進

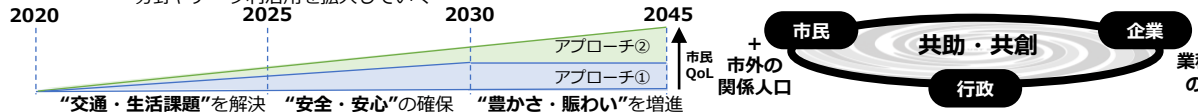
- 自動運転車の活用（移動時間も楽しく）
- デリバリープラットフォーム構築
- 多拠点生活用サブスクMaaS（関係人口向けの移動環境）
- 商業や観光施設等の連携（クーポン、ポイント、サイネージ…）



データ活用にあたっての検討事項

- デジタルスマートシティの取組と連携し、データ活用ルールを整備

ロードマップ：交通・生活課題の解決から取り組み、モビリティ×サービスの連携分野やデータ活用を拡大していく
推進体制：市民・企業の主体的参加で創造性の高いエコシステム形成



■ 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム
同コンソーシアムを中核とし、官民共創による地域課題解決や地域活性化に資するサービスやソリューションを創出します。



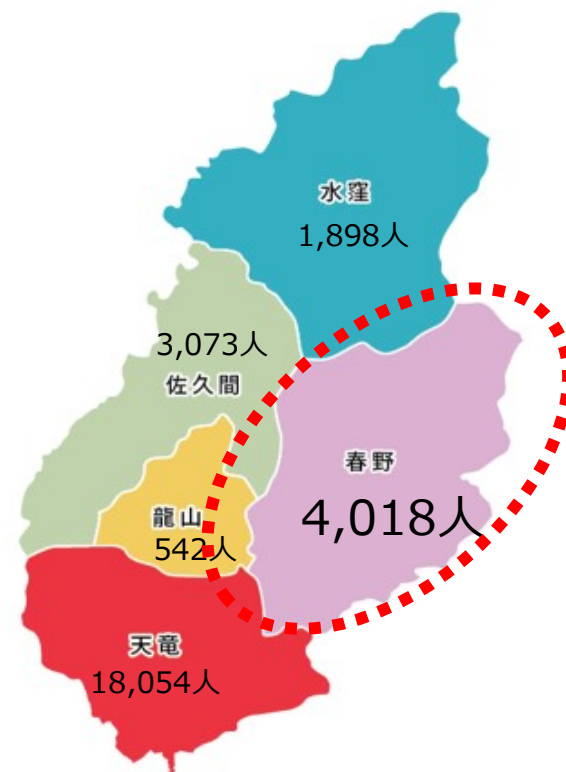
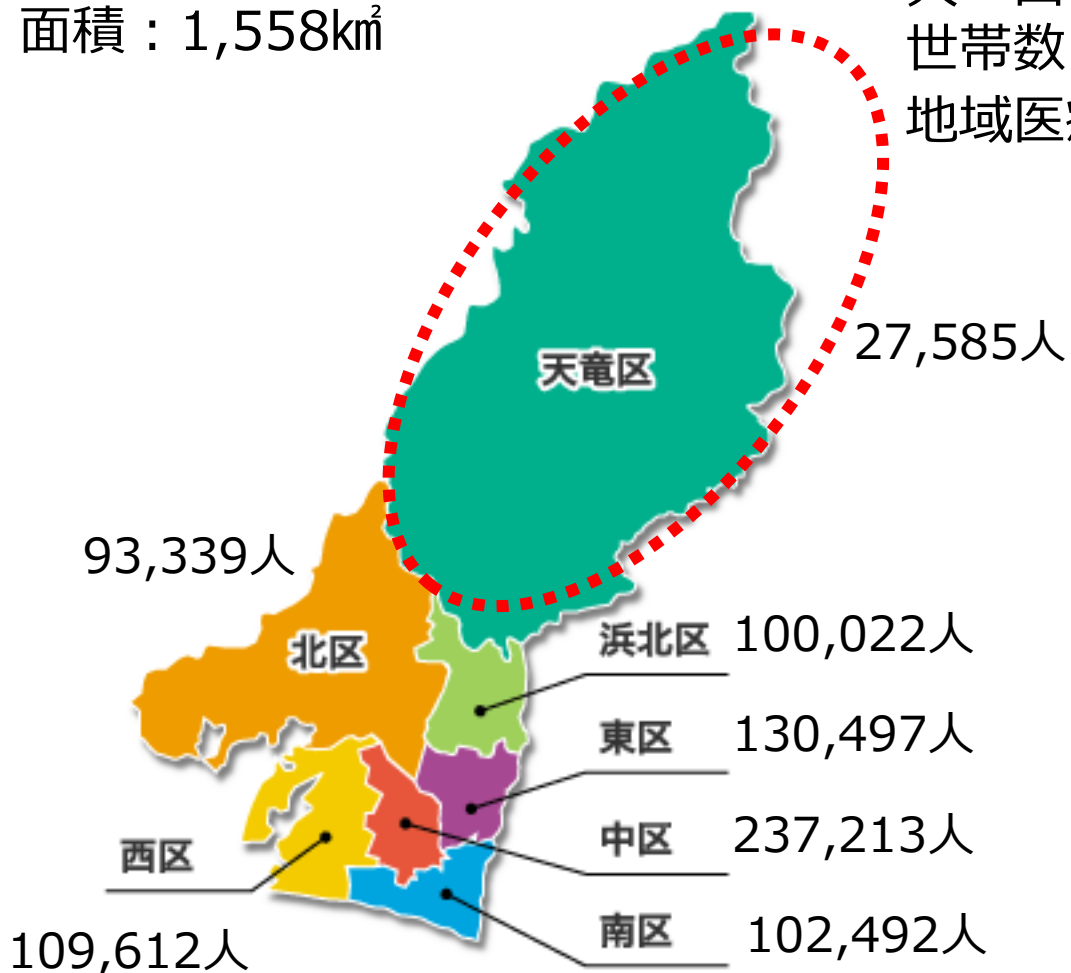
※R2.10.1現在

▼浜松市

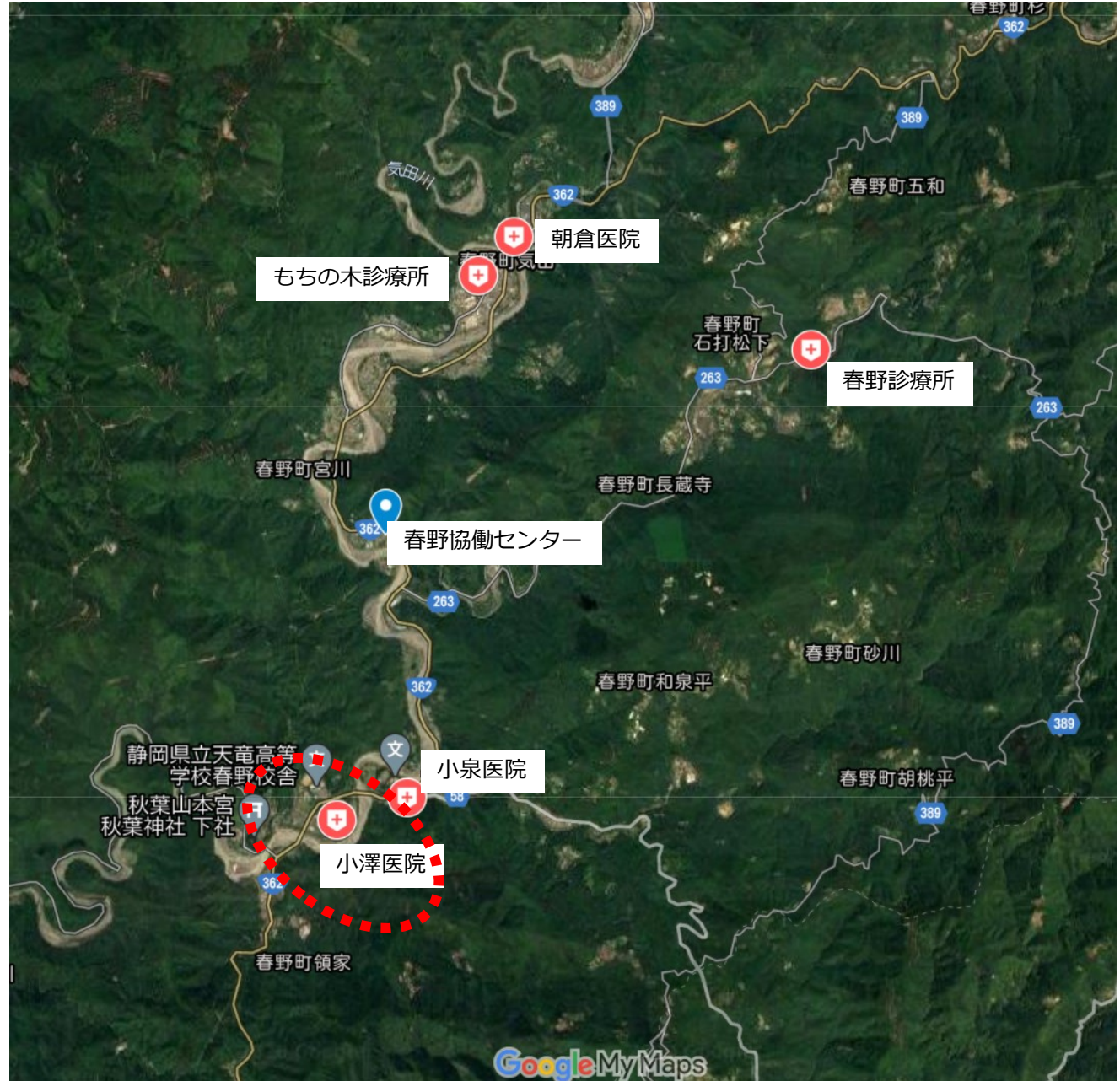
人口：800,760人
面積：1,558km²

▼天竜区春野町

人口：4,018人（高齢化率：約**50%**）
世帯数：1,781世帯
地域医療課題：**通院や地域医療の継続**



春野町内の診療所



<H30年度>

磐周医師会が地域の在宅医療や介護に関する調査報告書（市からの委託事業）の策定過程において開催した「医療・介護連携多職種合同カンファレンス」において“患者は移動ができないので医師が出向く”ことなどの提言が行われた。

<令和元年度>

- 浜松市が、MONET Technologies(株)、(株)杏林堂薬局と個別に連携協定を締結。
- 浜松市、磐周医師会、MONET Technologies (株)で「医師が出向く」など課題解決に向けた取組について意見交換。



モネ・テクノロジー(株)



(株)杏林堂薬局

<令和2年度>

- 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム設立。
- 「春野医療MaaSプロジェクト」が経産省の事業に採択。

令和2年度スマートモビリティチャレンジの先進パイロット地域（経産省事業）として16地域を選定

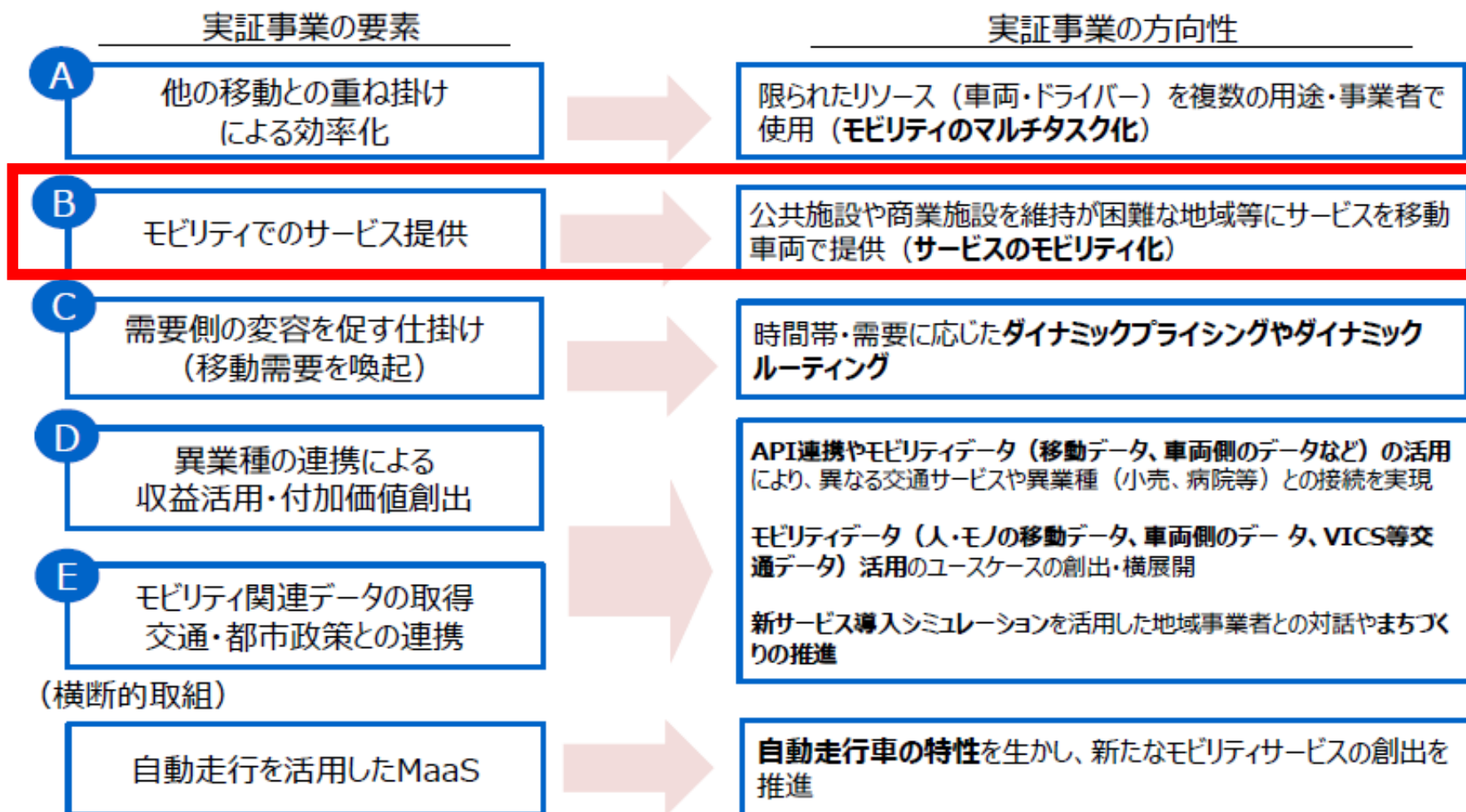


1	北海道	北海道上士幌町
2	北海道	北海道北広島市
3	東北	福島県南相馬市、浪江町、双葉町
4	東北/関東	日立、会津地域
5	関東	新潟県新潟市
6	関東	東京都町田市
7	関東	長野県塩尻市
8	関東	静岡県静岡市
9	関東	静岡県湖西市
10	関東	静岡県浜松市
11	中部	愛知県尾三地区南部
12	中部	愛知県常滑市
13	近畿	福井県永平寺町
14	近畿	兵庫県養父市
15	中国	広島県庄原市
16	四国	香川県三豊市

● 先進パイロット地域（経産省事業）

※国交省事業についても実証地域を選定

- 新たなモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決及び地域活性化を目指し、令和2年度は、以下のA～Eの要素及び自動走行を活用したものを対象として、先進パイロット地域を選定し、実証事業を実施し、ビジネスモデルの検証や事業環境整備に向けた課題整理を行う。



<内容>

(1) オンライン診療

専用車両が患者様のご自宅付近までお伺いし、同乗の補助員サポートのもと、オンライン診療を実施します。

(2) オンライン服薬指導、薬剤配送

パターン①：診療所（小澤医院）

診療所の医師がオンラインによる服薬指導を行い、薬剤をドローンでご自宅まで配送します。

パターン②：薬局（杏林堂）

薬局で服薬指導をした場合は車で配送します。

※ドローンによる配送は、現地調査、3D地図作成、許可手続き等の調整があるため12月に実施する予定

<期間>

令和2年10月19日～令和2年12月下旬

<対象者>

診療所の患者様から10名程度



団体区分	団体名（実施内容・役割）
代表団体	浜松市(全体調整)
参加団体	磐周医師会（医療関係者などとの調整） 小澤医院（オンライン診療、オンライン服薬指導） MONET Technologies(株)（企画・運営、移動診療車及び運行システム提供） 杏林堂薬局（オンライン服薬指導、薬剤配送） トラジェクトリー（ドローンによる薬剤配送、3D地図作成） 博報堂（全体報告書作成） 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム（コンソーシアムで共有）

移動診療車等のイメージ



移動診療車



薬剤配送車



薬剤配送ドローン



※写真提供「LIGARE」



春野医療MAASプロジェクトデモムービー

 **Trajectory** あ
トラジェクトリー

▶ ⏪ 🔊 0:00 / 2:07

スクロールして詳細を表示

